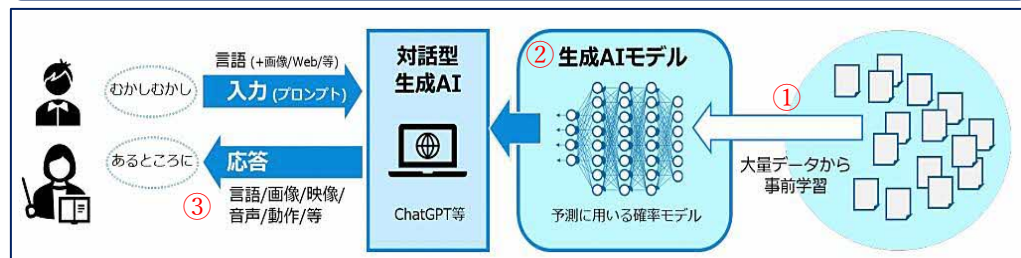


保護者向けリーフレット「生成 AI の利活用について」

生成 AI って何？ ～生成 AI の概要～

学習したデータから、文章、画像、プログラムなどを生成することができる AI の総称です。

あらかじめ膨大な量のデータ①から学習によって構築した大規模言語モデル②によって、ある単語や文章の次に来る単語や文章を推測し「統計的にそれらしい応答」を生成③し、人間と自然に会話しているかのように応答します。



生成 AI の落とし穴

生成 AI は、その性質上誤った出力（ハルシネーション）を完全に防ぐことは極めて難しいとされています。生成 AI の出力は、あくまでも「参考の一つである」ことを認識し、最後は人間が判断し、生成 AI の出力結果の利活用から自ら責任を持つという基本姿勢が重要です。

どのような生成 AI があるの？ ～主な対話型生成 AI の種類～（令和 7 年（2025 年）4 月現在 詳しくは各 HP を参照）

	ChatGPT	Gemini	Copilot
提供元	Open AI	Google	Microsoft
主な大規模言語モデル (LLM)	GPT-4o mini（無料） GPT-4o（有料） OpenAI o3-mini（有料）	Gemini 2.0 Flash（無料） Gemini 2.5 pro（有料）	GPT-4 DALL-E 3
年齢制限	13 歳以上 18 歳未満は保護者の同意	13 歳以上 学校用アカウント	18 歳以上 18 歳未満は保護者の同意

生成 AI を学習で使ってもいいの？ ～学習場面における生成 AI の利活用～

生成 AI を使うべきかどうかの判断は、家庭や学校で「身に付けさせたい資質・能力の育成につながるか」「教育活動の目的を達成するために効果的か」を保護者や学校が吟味し、判断する必要があります。

具体的には、生成 AI に全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であることを児童生徒が認識した上で、「その使い方は、適正な評価の妨げになっていたり不正行為につながっていたりしていないのか」「その使い方は、生成 AI の出力を使って、深い意味理解を促したり思考力を高めたりしているのか」といった視点から、子どもが生成 AI を活用しているかを見極めることが重要です。

学習場面において利活用が考えられる例

- 自分の考えをまとめたりアイデアを出したりする活動の途中で、自分に足りない視点を生成 AI に質問し、考えを深める。
- 英会話の相手として生成 AI と対話し、より自然な英語表現に改善する。
- 自ら作った文章を生成 AI に修正させながら何度も推敲し、より良い文章を完成させる。
- 教科書等の内容を自分の進度に合わせて理解するために、生成 AI に解説やイメージを出力してもらい、学習内容の理解を深める。



不適切と考えられる例

- 各種コンクールの作品やレポート・小論文、読書感想文や日記等について、生成 AI による生成物をほぼそのまま自己の成果物として応募・提出する。
- 詩や俳句の創作、音楽・美術等の表現・鑑賞など、感性や独創性を発揮させたい場面、初発の感想を求める場面等で安易に使わせる。



☆☆こちらもご覧ください☆☆

「生成 AI はじめの一步～生成 AI の入門的な使い方と注意点～」(総務省)



授業ではどのように使われているの？ ～授業での利活用事例～

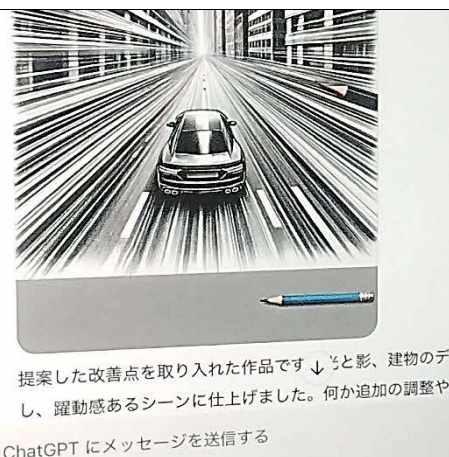
【国語：科学に関する評論文を読む授業】

学習目標	文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めていく。
学習展開	● 科学に関する文章を読み、論理構成を意識しながら筆者の意見の内容を解釈する。 ● 「私たちは科学とどう向き合っていくのだろうか」について、グループで話し合い、考えを形成する。 ● 「私たちは科学とどう向き合っていくのだろうか」について、生成 AI に意見を求める。生成 AI の考えと自分たちの考えとを比較し、考えを広げたり深めたりする。 ● 「私が筆者に伝えたい、私なりの科学との向き合い方」というタイトルで筆者に向けてレポートを書く。作成した文章を生成 AI に校正させ、より適切に自分の考えが伝わるよう表現を工夫する。



【美術：版画で表現する授業】

学習目標	他者や生成 AI の視点を借りて客観的に表現を見直し、そこから得た気付きをもとに下書きを手直しすることで、表現をより豊かにしていく。
学習展開	● 作成した下書きのデザインについて、グループで自分の表現しようとしたイメージを他者に伝える。 ● 生成 AI に、自分の下書き（画像データ）を読み込ませ、テーマ性・構図・光と影・動き等の表現について質問し、フィードバックをもらう。 ● 生成 AI に、自分が下書きを作成した際に意識したこと（テーマ性・構図・光と影・動き等）を入力し、画像を生成する。生成された画像を鑑賞し、自分の下書きのデザインと比較する。 ● グループ内の意見や生成 AI のフィードバックなどを参考にしながら、下書きを修正し、表現をより確かなものにする。



【マメ知識①】個人情報を守るために

生成 AI サービスでは、入力された個人情報が、生成 AI の機械学習に利用されることがあり、他の情報と統計的に結びついた上で、また、正確又は不正確な内容で、生成 AI サービスから出力されるリスクがあります。

家庭や学校で子どもが生成 AI を利活用する場合、プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力させないよう留意する必要があります。

道立学校では、児童生徒が学習活動等で生成 AI を利活用する際には、**入力した情報を学習させない設定（オプトアウト）**にすることをガイドラインで定めています。

参考：道立学校における生成AI利活用ガイドブック

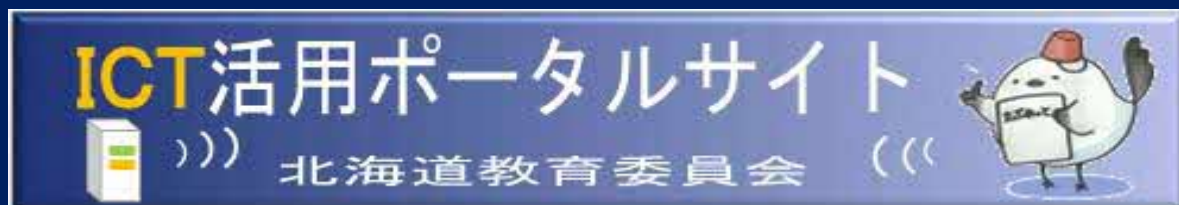


【マメ知識②】生成 AI と著作権

生成 AI サービスでは、既存の著作物と類似した生成物が生成される可能性があり、そのような生成物の利用内容によっては、**著作権侵害が生じるリスク**があります。

家庭や学校で子どもが生成 AI を利活用して作成した画像等が、既存の著作物と同一、または、類似のものであった場合でも、家庭学習や授業の過程における利用であれば、著作権者の許諾なく利用することが可能です。

しかしながら、作成した画像等を、個人や学校の HP にアップロードする、また、外部のコンテストに作品として提出するなど、授業目的の範囲を超えて利用した場合は、著作権侵害となる可能性がありますので、留意する必要があります。



<https://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html>